

全商会計実務検定試験テキスト 財務諸表分析

～改訂のポイント～

一橋大学名誉教授 帝京大学教授 新田 忠誓

先生方、商業教育の目標をどのように考えておられるでしょうか。「会計実務検定試験」ならびに本テキストの目標は、現代金融社会および企業に触れること、これを通じ、商人（企業人）センスを磨くことです。「財務諸表分析」と言うと、簿記（の技能）を習得した後でないと、難しくくてできないという人がおります。それは“教科書検定の狭い世界”に縛られた人で間違いです。例えば、経営コンサルタントが高校教科書の貸倒償却や三分法の簿記処理ができるとお思いですか？「できない。」と思います。なお、本『財務諸表分析』と「会計実務検定試験」の精神ないし内容は、お手元の『会計実務』の教科書のそれとは違います。

「会計実務検定試験」ならびに本「テキスト」の目的を譬えるなら、動物園に行き、例えば、“象”を見ることです。決して“象使い”を養成することではありません。これまでの商業教育は簿記検定という言わば“象使い”を育てることに傾倒しすぎていませんでしたか？財務諸表を作ること（＝象使いの育成）ではなく利用すること（＝動物園見学）が、この「財務諸表分析」の目的です。現実問題として、卒業した生徒がどれだけ、譬えの動物園に就職でき、その上に希望かなって、象の飼育担当係になれたでしょうか。この成果は先生方と置かれた高校の現状にお任せするとして、“象使い”に生徒がなろうとしたときでも、その前に動物園の楽しさを教えなければ、意欲が湧きませんよね。世の中には、これまでの人間たる自分とは違った面白い生物がいる、そして、多種多様の生物の世界に自分が組み込まれていることを認識させなければ、自分のやっていることの位置づけができないのではないのでしょうか。生徒にこのようなチャンスを作ってやれば、商業および企業社会に興味をもって勉強することになると信じています。自分の受けている教育は経済社会そして商業の世界でどのような位置づけにあるのか、こ

れを知ることこそ意欲の源になるのではないのでしょうか。就職に有利という掛け声で技能を押し付けるだけでは意欲を喚起することにはならないと思います。つまり、自分が生きている資本主義企業はどのようなものなのか、どのような姿をしているのか、これを“見る”ことが肝要でしょう。ここで、敢えて“知る”ではなく“見る”という表現を使っています。本当に知るためには、大学、それ以上の教育を受ける必要があります。

以上の信念に基づき、本テキストは、兎に角、修学旅行のように①「現実の最先端の企業社会を見る」ことを目的として書かれています。したがって、②「具体的な企業」を対象とし、教科書と違い具体的な企業名も入れています。さらに、ピックアップ（『三訂版』）やセブンイレブン（本『四訂版』）のように、③「生徒の眼に見える企業を扱う」よう心掛けております。正しく‘生きた’教材です。これは、これまでの商業教育に不足していたのではないのでしょうか。このように今・現実の公表財務諸表に接することは簿記教育の一つの目標を与えることにもなる筈です。教科書が取り上げていないとは言いませんが、制度改正にはついて行っておりません。つまり古いのです。本テキストは常に④「最新の情報」によっています。

現代は金融化された社会になっており、これを作っている、否、国際化の下、この中で生き延びなければならないのが企業です。社会の根幹をなす企業がそうなら、この企業社会の中に生きている我々も社会を動かしている⑤上場企業に眼を向けることが必要となります。これがなければ、生きた商業教育でないと信じます。

テキストの内容を紹介しましょう。意図は「企業経営と投資の“センス”の養成」（あくまでセンスです）になります。これを受けて始めます。企業経営の基本は“儲ける”ことと‘潰さない’ことです

ね。前者を収益性、後者を安全性と言い、この状態を見る眼を養うことが必要になります。収益性を見るためには、損益計算書と貸借対照表が必要です。「精算表」の損益計算書・貸借対照表は損益勘定・閉鎖残高勘定または繰越試算表であり、損益計算書・貸借対照表ではありません。報告式で、意図を持って分類表示されたものが財務諸表です。ですから、最初から財務諸表分析に利用されるように表示されているのです。その表示に沿って計算式に当てはめて行けばよいのです。この学習により、分析企業の利益の源泉が分かり、これは“利益を得るには、どうすれば良いか”というセンスを磨くことに繋がります。安全性では、損益計算書、貸借対照表に加え、お金の流れを示すキャッシュ・フロー計算書も利用されますが、これも表示を見れば良いだけです。この学習は、企業の短期・長期の確実性を知ることになり、“堅実な経営・生き方は、どうあるべきか”というセンスを陶冶することになると思います。これらのセンスを磨いたら、今度は、投資のセンスです。このためには、株価を知らねばなりません。これもただ株価と財務諸表の言葉を利用するだけで

す。これが本テキストの鳥瞰です。

このように見てくると、財務諸表分析は『情報』教育でも格好の材料になると思います。具体性ある情報学習です。テキストでは⑥ハウス食品の財務諸表を示し計算させるようになっています。

さらに、投資を通じて社会を見ることは、我々が生きていかねばならない金融化された社会の理解にも繋がるはずで。この点、普通高校の金融教育にも利用可能でしょう。

再確認しておきたいことは、「財務諸表分析」は簿記検定の鍛錬を積んだ3年生を意識しております。1年生でも、企業や社会や“商人”に興味を持たせるために、商業教育の素晴らしさや（卒業後も含む）未来を示すものとして、動物園に「象」を見物に行くつもりで利用していただければ、と思っています。

最後に、先生方が生徒から「就職先が安定しているか」という質問を受けたときも利用可能ですね。生徒に分析させてください。これぞ商業を選んだ素晴らしさと技能です。

日本簿記学会第29回全国大会「高校簿記教育懇談会」のお知らせ

日本簿記学会理事 横浜市立横浜商業高等学校

粕谷 和生

本年の日本簿記学会（会長 新田忠誓先生）第29回全国大会は、立教大学（準備委員長 倉田幸路先生）を会場として、8月31日・9月1日に開催されます。今年も例年どおり「高校簿記教育懇談会」を開催します。多くの皆様に参加していただけますように、8月31日（土）の10時～11時30分を予定しております。なお、従来から、本懇談会は広く高校の先生方に開かれており、会員でない先生にもご案内申し上げます。

本年の「高校簿記教育懇談会」は、新学習指導要領が4月から実施されることに伴い、簿記会計分野の科目の指導方法に関する意見交換を行いたいと考えております。どうぞ気軽にご参加くださいますようお願い申し上げます。また、報告を引き受けていただける先生も募集いたしますので、ご一報いただければ幸いです。

高校簿記教育懇談会に参加をご希望の先生は、会場準備等の都合もございますので、Eメール・FAX・電話のいずれかで、お名前・学校名・連絡先を添えてお申込み下さい。特に申込の期限は設けませんので、どうか振ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

参加申込先 横浜市立横浜商業高等学校 粕谷和生

Eメール tk-kas01@edu.city.yokohama.jp FAX (045) 713 - 3969 電話 (045) 713 - 2323

2013年5月20日 印刷
2013年5月24日 発行
定価 210円
(本体200円)

◎編修・発行

実教出版株式会社

代表者 戸塚 雄武

発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町5
TEL. 03-3238-7777
<http://www.jikkyo.co.jp/>